

月刊 星空の散歩道 7月号

2023年

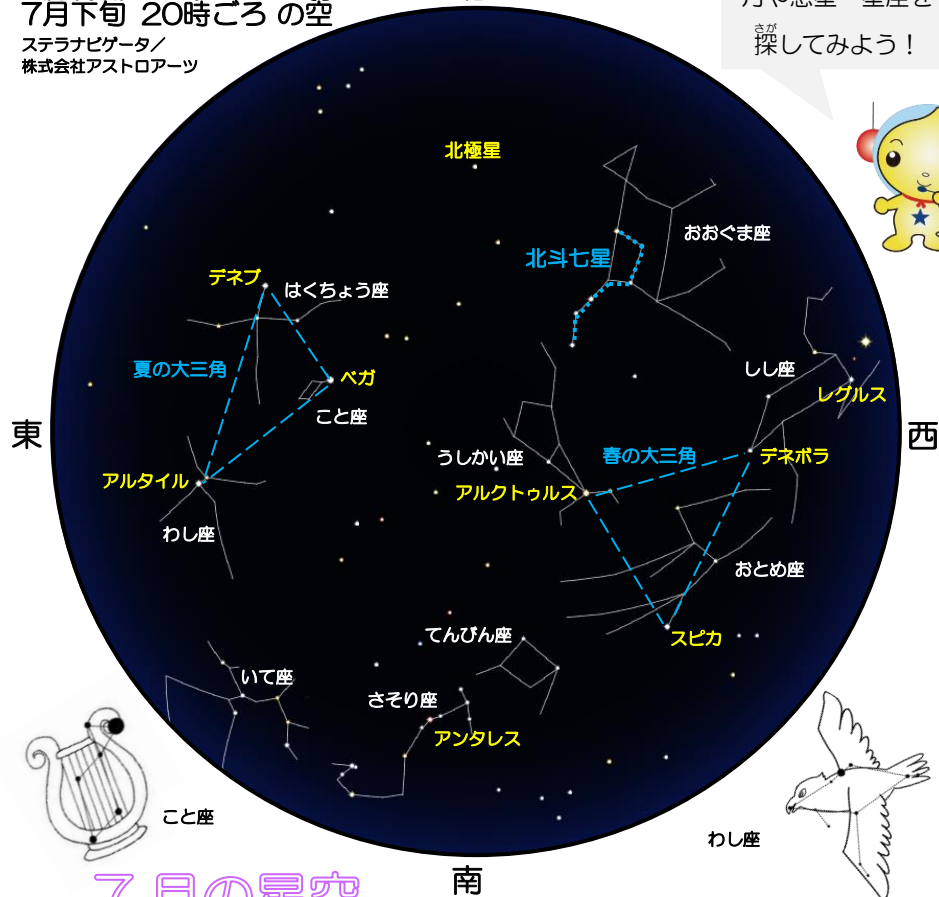
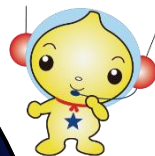
7月上旬 21時ごろ

7月下旬 20時ごろの空

ステラナビゲータ/
株式会社アストロアーツ

北

つき わくせい せいざ
月や惑星・星座を
探してみよう！



こと座

わし座

7月の星空

☆宵空の主な星座と明るい星☆

西の空に春の星座が、南の空と東の空に夏の星座が見えています。

- < 西 > しし座 (レグルス、デネボラ)、おとめ座 (スピカ)
- < 天頂 > うしかい座 (アルクトゥルス)
- < 南 > さそり座 (アンタレス)
- < 東 > こと座 (ベガ)、わし座 (アルタイル)、はくちょう座 (デネブ)
- < 北 > 北極星、おおぐま座

☆天文トピック☆

7月 7日 七夕

織姫星はこと座の「ベガ」、彦星はわし座の「アルタイル」。夏の空で見つけてみましょう。

7月 12日 月と木星が大接近

明け方、東の空で下弦を過ぎた月と明るい木星がとても近づいて見えます。

7月 20日 月と金星が接近

日の入り後すぐ、西の空低くでとても細い月と金星が近づいて見えます。宵の明星としての金星は、そろそろ見納めです。

☆月の形の変化☆

7月 3日	満月	○
7月 10日	下弦	◐
7月 18日	新月	●
7月 26日	上弦	◑

☆7月の惑星☆

金星…日没後、西の空
土星…真夜中、南東の空
木星…明け方、東の空

<天文コラム> 7月7日

江戸時代、七夕は人日 (1月7日)、上巳 (3月3日)、端午 (5月5日)、重陽 (9月9日) とともに「五節供」のひとつとして祝日になっていました。また、笹の飾りが一般に広まったのも江戸時代からと考えられています。

しかし、明治6年、それまで使われていた太陰太陽暦を太陽暦に改暦した際 (詳しくは『星空の散歩道2021年11月号』参照)、五節供は廃止されました。

祝日ではなくなりましたが、各地で七夕まわりの風習は残りました。ところがこの開催日は今の暦どおりの7月7日や1か月遅れの8月7日、旧暦の7月7日とまちまちです。

「七夕」は「織姫星」「彦星」が夜空で見えてこそその行事。現在の暦での7月7日では、2つの星は真夜中に見頃を迎えます。梅雨の最中でもあり、星空のものが楽しめないことも多いでしょう。そこで梅雨も明け、「織姫星」「彦星」が早い時間に昇る1か月遅れや旧暦7月7日に開催しているのかもしれませんがね。

国立天文台も2001年から太陰太陽暦による7月7日に近い日を「伝統的七夕」として広め、星空を見上げてもらおうとしています (今年は8月22日)。みなさんも七夕の星をみつけてみませんか？

伊丹市立こども文化科学館 発行日 2023年6月20日

〒664-0839 兵庫県伊丹市桑津3丁目1-36 TEL: (072) 784-1222

HP: <http://business4.plala.or.jp/kodomo/>

